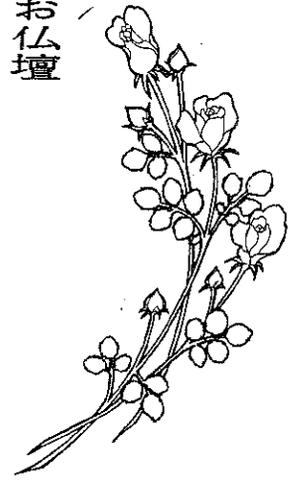


勝林寺

小さなお仏壇



わたしはこのたびほど、如来様のおはたらきの、広大なご威徳を目の当たりにしたことはございません。
もつたいなくて勿体なくて、ことばなどではとても云うことはできません。

わたしは、今年の春から、特別養護老人ホーム「愛の園」にお世話になっております。ここはキリスト教の系統でありまして、お食事をいただきます。おつきあいで仕方なくわたしもいただきますが、やっぱりどうもなじめません。

ここに百歳ちかのお寺のおば様が入っていらっしやつて、小さなお仏壇を枕元の台の上にもっておられます。見ていると、時折お勤めなどもなさっているそれが羨ましくて、娘にそのことを申し上げておりましたところ、ご親切な若いお寺様から、ちいさな折り畳み式のお仏壇をいただけただけでございます。

〈地獄で仏〉と云っては言い過ぎかも知れませんが、まあ、さっそくその日から、折々に、手を合わせお念仏申し、とてもとてもうれいこと御座いました。

それにわたしは、なんという幸せ者でしょうか、あるお寺のご院様から、テレホン法話をふきこんだ録音テープをいただいております。それをまた繰り返し繰り返し繰り返して聞かせてもらっております。なんとも幸せ一杯。
老いて、病んで、老人ホームに入ったらばこそと。

ちいさなお仏壇をいただいた次の日の朝でございます。

家におりますときには、朝6時。お寺の本堂に参らせていただいて、老奥様とお正信偈さまをあげさせていただきますそのことを思いながら、一人でベットのうえで「帰命無量」と、ひっそりとお勤めさせていただいております。

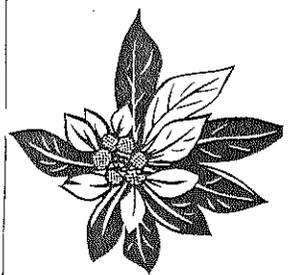
途中、何やら気配がして振り向いて見ましたら、全く今まで見たこともない入所者の方と若い看護士さんとが三人、わたしの背中に越しに手を合わせ、一緒にお正信偈さんとなえてくださるではありませんか。
わたしは振り返って、おもわず「おーきに」おーきに」と云いました。

次の日の朝には、そのうえに何人かふえてまいりました。

なんともなんとも勿体ないことあります。こんなに小さな如来様なのに、そのご威徳は、不可思議広大です。

キリスト教のこの施設の中でも、一人一人、お前も来い、お前も救うと、呼び寄せ呼び寄せてくださいます。

ほとりも知れぬ極悪、たとえようもない濁り切った世の中の、どうしてみようもないこの悪人を、そのものを救わずにはおかんとはたらいてくださる如来さまに、本当にまざとお出会いさせていただきますので御座います。



報恩講

ご開山親鸞聖人三十三年目のご命日に、聖人のひ孫にあたる覚如上人が『報恩講』と名付けた法要をお勤めになりました。そしてこの法要の意義を『報恩講式(私記)』という文章にしたためてお残しくださいました。

ことに宗教混同の世の中にあつて、わたしが救われて行く、いつわりごまかしのない真実の宗教(本願念仏の道)を開顕くださった親鸞さまの影響力は、お亡くなった今にいたるまで、わたしのいのちのいのちのより所となつてくださる。そのご恩を思い、如来のご本願に願われて生かされているこのいのちを輝いて生きましようとお勤めするのが報恩講です。

まず、勝林寺、お寺の報恩講からはじめて、来年の春にかけ、ご門徒の家々を漏れなくお勤めして参ります。厳肅な気持ちでお勤め致したいものです。

十一月二十一日 夜七時 ご伝鈔
八時 勤行
ご法話

ご法話 西宗寺内田 宏圓先生

清掃奉仕

11月16日

午後2時集合

境内除草(鎌・鋏) 仏具おみがき

報恩講をまえにして「清掃奉仕」をおこないたいと思います。

ご都合のつく方は、ご協力ください。

仏教壮年会長 永井孝一郎
仏教婦人会長 南加寿子

十一月のごよみ

- 一日 高福寺報恩講
- 二日 高福寺報恩講
- 三日 長専寺報恩講
- 四日 岸下秀一氏法事(寺)
- 五日 光頭寺報恩講
- 六日 光頭寺報恩講
- 七日 本覚寺報恩講
- 八日 本覚寺報恩講
- 九日 永井五生氏宅法事
- 十日 但馬ボランティア研究会(豊岡)
- 十一日 唐川公民館遷座法要
- 十二日 知的障害者生活援助者養成研修
- 十三日 教区企画常任委員会
- 十四日 同朋運動学習会(神戸別院)
- 十五日 西方寺報恩講
- 十六日 西方寺報恩講
- 十七日 福成寺報恩講
- 十八日 福成寺報恩講
- 十九日 清福寺報恩講
- 二十日 清福寺報恩講
- 二十一日 朗読ボランティアあすなる編集
- 二十二日 出石組連研運営委員会
- 二十三日 報恩心講(夜七時)
- 二十四日 報恩心講(昼十時)
- 二十五日 真覚寺報恩講
- 二十六日 真覚寺報恩講
- 二十七日 出石組「連研」(西宗寺)
- 二十八日 朗読あすなる録音
- 二十九日 奥栗尾報恩講
- 三十日 口栗尾報恩講
- 定期検診
- 正法寺報恩講
- 広報委員会
- 布教同志会聞法の集い(尼崎)
- 正法寺報恩講



『聞こえますか！』



九月十八日、東京の国立千鳥が淵全戦没者追悼法要にお参りしてまいりました。そこで朗読された京都女子高校の山口慈子さんの『聞こえますか？』と題した作文を紹介いたします。

アウッチ(英語)、アブダー(韓国語)、タングー(中国語)、アイエー(フランス語)、痛い(日本語)。
世界のあらゆる場所で人々は自分の痛みを其の国のことばで訴えて来ました。声を大にして世界にむけて叫ばれた声もあれば、心の奥底で祈るように呻きだされた声もありました。それら、苦しみや悲しみが溢れて、流れ出たその声に、私たちは、どれくらい耳を傾けて来たでしょうか。

自分のことなら大声で主張します。子供のころ、ちょっと転んだだけでも「痛いよ痛いよ」と泣き続け、誰かが気づいてくれるまで道にすわりこんで泣き続け訴えつづけた私。

それから最近おもう事があります。「ささやかな声。本当の声がなかなか聞き取りにくい世の中になってるんだ」

「聞こえますか」とたとえば町角で突然云われたら、私たちの耳に何が聞こえてくるでしょうか。

クラクション、選挙カー、サイレン、右翼暴力団の宣伝カー、物売り、自分を主張して争う声。この騒音雑踏のすぐそばで小さな子供がしくしく泣いていても気づくことはできないでしょう。

それが、私たちの耳です。近くの大きな音に遮られて、遠くの音や小さな音は聞こえなくなっています。

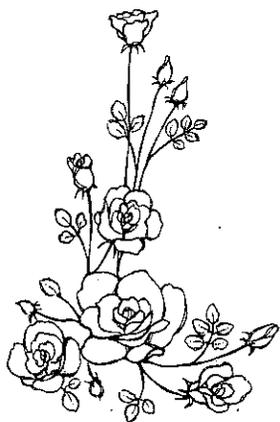
「痛み」。それは人間だれでも備わっている感覚のひとつです。自分の痛みとなるだけでも一瞬とっさに「痛い」と叫んでしまいます。そうであるのに私たちは、人の痛みを感じ取るのに、どれくらい時間をかけているのでしょうか。いま、この瞬間に、感じ取る人の痛みがいくつあるのでしょうか。

アウッチ、アブダー、タングー、アイエー、痛い。

世界じゅうのあらゆる場所で、とくに男、大人の戦争の轟音のなかで、叫ばれているこのことば。聞き取れないほどのこの声に、私たちは今一度、自分の口に蓋をして、静かに耳を傾けるべきではないでしょうか。

どこにいても耳を澄ましさえすれば聞こえてくる、小さな声、悲惨な叫び、ひつうな呻きが聞こえてくるはずですよ。

言葉や文化、民族や国が違っても、私たちには、ほとけさまからいただいた慈悲という人の「痛み」を感じ取れるところがあるはずですよ。それを信じ、世界に耳を傾けることが平和への第一歩だともいえます。



いのちの尊さを知る人は
仙のいのちを
生かす人

赤穂北組 中西正一

兵庫県正門徒推進員連絡協議会

年がよって

七拾老翁

年よりになった証拠です。朝、目が覚めて先ず第一にすることは、新聞の「おくやみ欄」を見ることです。これはいつから始まった習慣でしょうか。自分でもよう分かりません。

人様の死んだ年を見て、自分より若いのに、お気の毒に事故死なのかもと思ったり、年の大きいお方のお名前を見れば、自分もこの年まで生きられるのかなと考えたり、ともかく毎日、「おくやみ欄」をみて、今日のわがいのちを、確かめ確かめ生きています。

このように年がよってはじめて「いのち」が実感できるようになった。若いころには「いのち」を「いのち」とも思わず、うかうかと粗末に生きて来たものだなあと後悔もしているのです。

「若い」とは「失うさびしさ」と云います。確かに健康・体力・気力などなど失われていくものが多いのは否めません。だけど、若いならばこそ「見えてくるもの」「得られたもの」もたくさんあると、わたしはこのころ「若い」を喜ばせていただいております。

わがいのちが実感できます。物言わぬ自然のものの声や音も聞こえてくるようになりました。人と人との出会いの嬉しさも、このごろ身にしみて感じとれます。



仏恩喜ぶ日暮して

如来の家に

住むわたし

岡山北組 水杉良則

兵庫県正門徒推進員連絡協議会

家には、中学三年になる男の子がおります。最近モリモリご飯をたべて見る見るでっかくなってきました。大きくなるほど無口になつて、私ともあまり会話はしないのですが、これが秋の取り入れ仕事を一人でこなしてくれました。アレヨアレヨと見ている間に、筋骨たくましい肌を太陽にさらして、農作業にとりくんでくれたこの孫と、一緒に働かせてもらう嬉しさ。

この孫かいてくれているもう大丈夫。ようまあ大きくなってくれたな。この孫と、一つ田圃で働いて、この幸せは……と、この孫をほんとうに拝みたくなりました。

年が寄って、わたしはこの幸せに出会えております。ですからわたし、年が寄るのは嬉しいことだと思っております。

ご院家さんからよく聞く、「如来様のご本願に願われ念じられ呼ばれているいのちを、いっしょに生き死にしよう」ということが、年が寄った今、ほんとうの事だと気づかせていただけました。

